



一人一人名前を呼びながら園児と向き合う柴崎園長



議会広報常任委員が、「^{こうちよう}広聴」活動として、吉岡町で活躍している「ひと」にインタビューをします。

『子どもを育てるなら吉岡町』 の一翼を担って



吉岡町第四保育園 園長

柴崎 尚長 さん

— 第四保育園は、どのような保育園ですか。

柴崎さん 当園は社会福祉法人吉岡会の運営する5保育園のなかの一つです。昭和55年4月に開設し、昨年4月に満40周年を迎えました。60人の定員で開所した後、町の人口増とともに保育ニーズの高まりから定員増を図り、現在は200人の定員を有するまでになりました。また平成27年には、待機児童の解消とさらなる保育ニーズの受け皿となるべく園舎の建て替えをいたしました。

— 吉岡町は子どもたちが増えています。どのようなことに気をつけていますか。

柴崎さん 当園の保育目標としては、『明るく素直な子ども』『強くてたくましい子ども』『人、物、自らを大切にすること』『子どもたちの目指す理想像を目標に全職員が一丸となって保育に取り組んでいます。』

— コロナ禍の中で、園長先生として特に気をつけていることは何ですか。

柴崎さん 乳幼児は、親や保育者との間に愛着関係を結びながら育っていきまします。保育園では、子どもを抱きしめたり、身体的接触のある遊びをしたりすることによって、子どもの健全な社会性と共感性を発達させていきます。子どもとの間に2mのソーシャルディスタンスを取りながら保育をすることなど到底できません。保育者自身がその専門職としての自覚をもち、当たり前前の感染対策に十分気を付け、自分自身が感染しないことが大切だと思います。

— 町議会や町政に園長として望むことは。

柴崎さん 『子どもを育てるなら吉岡町』その一翼を担うべく、これからも努力してまいりますので、吉岡町の幼児教育をお支えいただけますよう、お願いいたします。

— 町民の皆さんに一言。

柴崎さん おかげさまで保育園は、園児の感染もなく、子どもたちは毎日を明るく元気に過ごしております。地域の皆さまには、温かく見守っていただければと思っています。

編集後記

本定例会では令和2年度の決算認定を予算決算特別委員会審査しました。コロナ対策にたくさんの費用がかかっています。議会でも感染症対策を十分に行い無事に予定の会期を終了しました。ワクチン接種も進み、収束に向かってはいると信じていますが、予断を許さない時期でもあります。緊急事態宣言下における自粛の中で、キラリよしおかいき活動は休載とさせていただきます。次回ではいきいきと再開できますことを切に願います。

(小林 静弥)

編集委員

委員長 廣嶋 隆
副委員長 富岡 栄一
委員 村越 哲夫
委員 富岡 大志
委員 飯塚 憲治
委員 小林 静弥